

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	東京都		学校名	台東区立浅草小学校	
人権課題	高齢者・障害者	対象学年・ 取り扱った教科等	4年・総合的な学習の時間	時数等	65時間
目標・人権教育のねらい	同じ社会に生きる様々な人の生活などを調べる活動を通して、助け合って生きることの大切さを実感し、自分たちができる支援を行うなど、地域や社会の一員として福祉に関わる活動を考え、実践することができる。				
実施した内容	<ol style="list-style-type: none"> ①高齢者や障害者の生活について調べる。 ②高齢者疑似体験を通して、高齢者や障害者の方が困っていることについて考える。 ③高齢者や障害者・外国の方に向けた、浅草の「心のバリアフリー」を探す。 ④学習発表会で、他学年の児童や保護者に上記の内容を紹介する。 ⑤高齢者や障害者の方に優しい、より良い浅草の町を作っていくため、自分たちに出来ることを考え、実践する。 				
工夫した点	<p>(指導上の工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連した図書を集めてすぐ手に取れるところに置いておき、いつでも見られるようにしたり、関連する図書の範囲を広げ、課題を大きく捉えられるようにしたりした。 ・イメージマップを活用して、一人一人が考えをもてるようにした。 ・個人の考えをより深めるために、個からグループの活動を取り入れた。また、考えを共有するためにKJ法的手法を活用するように促した。 <p>(地域や関係諸機関との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会の方にゲストティーチャーに来ていただき、高齢者疑似体験や車いす体験をさせていただいた。 ・地域に暮らす高齢者にインタビューする活動を設定した。 				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

道徳で親切・思いやりについて学習した際、本学習と関連させ、高齢者や障害者の立場に立って考えることができるようにした。

事業成果

知識的側面：高齢者や障害者の暮らしや困っていることについて理解することができた。

価値的・態度的側面：高齢者や障害者に優しいより良い浅草の未来について考えることができた。

技能的側面：日常場面において、高齢者や障害者に優しい言葉をかけたり、手助けしようとしたりする姿が見られた。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

東京都 台東区

学校名

台東区立浅草小学校

人権課題

同和問題

対象学年・
取り扱った教科等

6年・社会

時数等

1時間

目標・人権教育のねらい

国学や蘭学等に関わる人物の働きなどについて調べる活動を通して、差別されてきた人々による、腑分けなどの優れた技術が、医学の進歩など江戸時代の社会の発展を支えたことに気付かせるとともに、同和問題（部落差別）に関する歴史について理解を深める。

実施した内容

- ①解剖の様子から本時の問い「なぜ、杉田玄白は直接腑分けをしなかったのか。また、腑分けをしている人は誰なのか」を確認した後、既習事項を生かし予想する。
- ②「蘭学事始」を読み、問いへの情報を得る。
- ③虎松の祖父が解剖した事実と、その功績が観臓記念碑で全く触れられていないことを知り、自分が思ったことを話し合う。
- ④虎松の祖父以外にも、身分によって厳しい差別を受けてきた人々がいることを知り、自分の考えをノートに書き、話し合う。
- ⑤話し合いの中で考えが深まったことを振り返る。

工夫した点

- (指導上の工夫)
- ・腑分けの様子が分かりやすい想像図を提示し、杉田玄白が図の中のいずれかを問うことで、杉田玄白が直接執刀していないことに疑問をもてるようにした。
 - ・直接執刀した「老人」以外にも、身分によって厳しい差別を受けてきた人々がいることを知らせ一般化し、差別の醜さへの考えを深められるようにした。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

総合的な学習の時間で「皮革産業の町 浅草」を学習する際、本時の学習と結び付けて考えられるようにし、今でも身分による差別が残っていることに気付かせることで、自分事として向かえるようにした。

事業成果

知識的側面：厳しく差別を受けてきた人々が、江戸時代の医学の発展に大きく貢献したことを知り、身分による差別の醜さへの理解を深めた。

価値的・態度的側面：今の時代はそのような差別はないか、自分事として日常を振り返る姿が見られた。

技能的側面：「老人のような身分の人が腑分けをしてくれなければ解体新書ができなかったのに差別されているのはおかしい」「皆のために行っていることなのに、差別をするのは自分勝手だ」等、差別の理不尽さに対して、自分の考えを発言したりノートに記述したりする姿が見られた。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	東京都	学校名	台東区立浅草小学校
人権課題	インターネットによる人権侵害	対象学年・ 取り扱った教科等	5年・総合的な学習の時間
		時数等	12時間
目標・人権教育のねらい	インターネットにおける人権侵害の状況を理解し、インターネットとの付き合い方を考えることを通して、自他の人権を尊重する態度を育てる。		
実施した内容	<ol style="list-style-type: none"> ①イメージマップを使ってインターネットのイメージを広げ、問題を見いだす。 ②インターネットの怖さや危険性について考え学習計画を立てる。 ③インターネットにおける人権侵害について調べる。（調べ学習・SNS疑似体験） ④インターネットにおける人権侵害について調べたことを伝え合う。（学習発表会） ⑤インターネットとの付き合い方を考え、自分たちにできることを話し合う。 ⑥これまでの活動を振り返る。 		
工夫した点	<p>（指導上の工夫）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットのイメージを広げる際は、学年全体で意見の交流をさせ、「よさ」だけでなく「怖さ」の視点でも捉えられるようにした。 ・インターネットによる人権侵害の被害件数のグラフや具体的な事例を提示することで、人権侵害が身近にあることに気付かせた。 ・小学生でも起こりうる具体的な事例を使って、SNSの疑似体験をする活動を取り入れ、自分事として捉えられるようにした。 ・情報発信をする際はどのようなことに留意したらよいか、具体的な方法を話し合い、実際に浅草小学校を紹介する動画を作成した。 		

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

道徳「すれちがい」の学習で、相手の立場に立って気持ちを考える際、SNSでも同じことが起こることについて触れた。／国語「あなたは、どう考える」の学習で、自分の考えを読む人に伝えるためには言葉選びが大切であるという本学習での学びを想起させた。

事業成果

知識的側面：インターネット上でも対面時と同様に受け手のことを考え言葉を選ぶことが大切であると気付いた。

価値的・態度的側面：インターネット上での人権問題を自分事として捉え、気を付けて利用したり、参画したりしようとする態度の素地を育んだ。

技能的側面：相手に誤解を与えないようなメッセージの送り方やトラブルに巻き込まれた時の対処の仕方などを理解し、生活に活かそうとする様子が見られた。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	東京都	学校名	台東区立浅草小学校
人権課題	アイヌの人々	対象学年・ 取り扱った教科等	6年・総合的な学習の時間
		時数等	13時間
目標・人権教育のねらい	アイヌの人々の歴史や伝統、文化について調べたり、アイヌ文化の保全に向けた取組を行ったりすることを通して、アイヌの人々が大切にしてきた歴史や伝統、文化について正しく理解し、アイヌ文化の伝承に関する具体的な取組を考えるとともに、自らの生活や行動に活かすことができる。		
実施した内容	<ol style="list-style-type: none"> ①アイヌの人々の歴史や伝統、文化に関する資料を通して、アイヌの文化に関心を持ち、課題を設定する。 ②調べたい課題別にグループを編成し、情報を収集、整理してまとめる。 ③アイヌの歴史や伝統、文化についてまとめたことを報告する。 ④ゲストティーチャーからお話を聞き、アイヌの歴史や伝統、文化への理解を深めるとともに、アイヌの人々への偏見や差別があったことを知る。 ⑤アイヌの人々への偏見や差別について話し合い、自分の考えをもつ。 ⑥自分の生き方について考える。 		
工夫した点	<p>(指導上の工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室にアイヌの伝統的衣装や楽器などを展示したり、関連する図書資料を置いたりすることで、関心を高めるようにした。 ・アイヌの歴史や伝統、文化について調べる活動を行うことで、親しみをもったり魅力を感じたりした上で、ゲストティーチャーから偏見や差別について話を聞く活動を設定した。 <p>(地域や関係諸機関との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公益財団法人アイヌ民族文化財団からゲストティーチャーにいらしていただき、アイヌの歴史や伝統、文化に実際に触れる機会にするとともに、偏見や差別について直接お話を伺えるようにした。 		

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

社会科「新しい日本、平和な日本」において、アイヌの伝統文化を守るための取り組みが行われていることを学習する際、課題意識をもてるようにする。

事業成果

- ・ 知識的側面：アイヌの文化の魅力に気付くとともに、アイヌの人々への偏見や差別が今なお残っている現状について正しく知ることができた。
- ・ 価値的、態度的側面：アイヌの人々への偏見や差別について考えることを通して、自分たちの生活においても異なるものに対して偏見や差別がないか、自分事として振り返る姿が見られた。
- ・ 技能的側面：偏見や差別のない社会をつくるためには、相手を正しく知る必要があることや、互いを尊重し合うことが大切であることなどに気付き、自分の生活場面と結び付けながら自分の考えを発言したり、ノートに記述したりする姿が見られた。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	東京都	学校名	台東区立浅草小学校
人権課題	外国人	対象学年・ 取り扱った教科等	5年・特別の教科 道徳
		時数等	1時間
目標・人権教育のねらい	不公平な扱いをされた登場人物や、それを見ているマイケルの心情を考え、話し合うことを通して、自らの生活を振り返り、公正・公平な社会の実現に向け、努めようする態度を育てる。		
実施した内容	<ol style="list-style-type: none"> ①「公平」とはどういうことか話し合い、自分の日頃の公平さを自己評価する。 ②教材文を読み、教材文の中にある「公平でない」態度や言動について話し合う。 ③差別なく公平にするにはどうすればいいのか考える。 ④「公平」とはどういうことか捉え方の変容をまとめ、自分の公平さを再び振り返る。 		
工夫した点	<p>(指導上の工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入と終末において自分の公平さを自己評価する際に、数値化する活動を行うことで、自己の考えの変容に気付くことができるようにした。 ・隣り同士で対話し言語化する活動を行ったり、自分の考えをノートに記す場面を随時設けたりすることで、自分の考えを明確にできるようにした。 ・板書を構造化したり、揺さぶりの発問をしたりすることで、自分の考えや友達の考えを分類・整理したり、比較したりできるようにした。 		

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

総合的な学習の時間における留学生との交流について想起させた。

事業成果

- ・ 知識的側面：「公平」について、同じように接するというだけでなく、外見や出身での偏見をもたずに、相手の内面をしっかりと見て、互いに納得できるように接することだと、認識を深めていた。
- ・ 価値的、態度的側面：自分の日常においても、よかれと誤ってしている行動が外見や出身による偏見で行っていることもありうることに気づき、自分事として振り返る姿が見られた。
- ・ 技能的側面：偏見なく公平な社会をつくるためには、相手の内面をよく知ろうとしたり、互いを尊重し合って意見を聞き合ったりすることが大切だという考えを、発言したりノートに記述したりする姿が見られた。